

大戈壁

遠く滿洲三省の境上まで連亘せり。故に之を併せ算するときは、東經約七十六度より約百二十六度に延亘し、北緯約三十六度より約四十八度の間に出入す、而して東西に長く南北に短し。

本省の沙漠其の大なるものは、多く天山の南路に在り。就中、其の最大なるを大戈壁又は塔里木沙漠と稱し、西は巴密爾高原より東は羅布淖爾に至るまで、約四百五十里に亘り、北は天山麓より南は崑崙山脈に至り、平均二百五十里に及び、北、西、南の三面は峨々たる高山を以て圍まれ、其の高さ一萬尺以上一萬八千尺に及び、其の内疊々群を抜くの峻峯は、實に二萬五千尺に達せり。此の如き高山の積雪、及び氷河より流下する無数の河川は、盡く塔里木の大河に併吞せられ、滔々大戈壁の稍、北部を貫流し、東して羅布淖爾に注ぎ、漾々たる大湖水を湛へ、伏流と爲りて地下に其の踪蹟を失す。

天山南路の沙漠

北路の沙漠

羅布淖爾の東に在るを瑪海戈壁、其東なるを噶順沙磧、哈密と土魯蕃間に在るを白龍堆阿克蘇の東に在るを滴水崖、喀什噶爾、葉爾羌兩河間に夾まる、を伯斯罕沙磧と稱す。以上は南路に在り。北路には烏魯木齊の北方に古爾班通古特沙地あ